

(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
国語	○自分の考えを文章に書き表すことができていた。 ●資料を基に考えたり、ページをさかのぼって考えたりしなくてはならないような問題の正答率が低い。文章から必要な情報を取り出す力が弱い。	・読書量を増やしたり、色々な文章に触れさせて語彙を増やしていく。 ・情報を適切に抜き出すなど、自分の力で文章を読み解くような活動を取り入れる。
算数	○グラフの読み取りや、作図の手順、図形の理解などはよくできていた。 ●分数の意味や表し方の理解について誤答が目立った。	・授業の中で友だちの説明を聞くときなどに、分かったことや疑問を交流するなどして、理解が曖昧な部分に気付かせ、追究していけるような工夫をする。 ・筋道立てて問題を解けるように、問題文にメモをしたり図などに書き表したりして、題意を充分につかめるような習慣をつける。
理科	○新たな問いを作り出す問題や、問題解決能力を問うような問題の正答率が高かった。 ●基本的な用語や、性質などの理解が不十分だった。	・学習用語をしっかり使って学んでいく。 ・実験や観察の手順なども教師が教えるのではなく、児童が考えながら進めていけるような授業づくりをしていく。

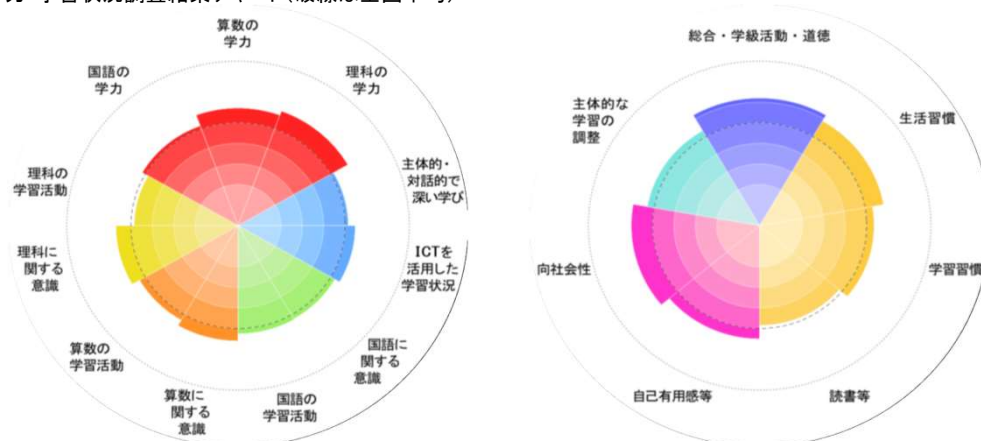
(2)質問紙調査から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
質問紙	○自己有用感が高いと判断できる回答が多かった。 ○安心して学校生活を送り、前向きに活動に向かうことができている。 ●他の設問と比べ、読書に対しては少し消極的な傾向が見られた。	・引き続き、児童が自己有用感を得られるような教育活動を行う。 ・読書に親しめるような環境づくり

(3)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

学校全体	・話し合い等を通じて、児童が自分の考えを広げ深めていける授業づくり
------	-----------------------------------

(4)学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)



【受検者数】

14 名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。

(5)質問紙調査の結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)

